



のとキリシマの 花さかじいさん

水木 由一

聞き手・出村魁斗 藪下亮太（石川県立能登高等学校1年）

自己紹介

わたしは、水木由一です。昭和15年1月28日生まれ、今現在72歳です。

職場の上司の方に頂いたさつきを大切に育てていくうちに趣味になり、そこからのとキリシマツツジの魅力に惹かれました。職場の上司に頂いた時は、まだ、花にはそんなに興味がなくて、「こりゃ水やりをして大事に育ててはならない」と水やりの管理をしていたんですけど、そのうちに愛着がついて、結局、花の咲いている所とか、売っている所へ、顔を出すようになって、だんだん鉢が増えてくようになったんです。趣味で好きだったことから始まったのではなく、そういう関係からはじまって、そして、自然

にそれにとりつかれたっていうかね。ですから、一時期さつきは、120品種、鉢は300くらいになったときもあったんです。

幼少期の様子

子供のころは今と違ってゲーム機のようなものはありません。当時は終戦後ですから、食べ物もあまりありません。外で遊ぶことで、近所の子供さんと一緒に、川へ行ったり、山へ行ったりして遊び、山でなっているものを取りに行ったり、近所のものを取って怒られたりって、特別な遊びはしておりませんね。

子供の頃なりたかった職業は、タクシーの運転手さんになりたかったんです。あの時は、車があまり在りませんでした。

ね、自家用車っていうかね、そういうものが無い時代でしたので、タクシーの運転手さんになりましたかったですね。

のとクリシマツツジとは

さつきとの違いは、葉が伸びてから花が咲くってものが、まず、さつきになるかと思えます。のとクリシマツツジはさつきと似たようなものなんですけども、葉が伸びない間に、咲き始めるってことで、1ヶ月早く咲くのが、のとクリシマツツジなんです。

のとクリシマツツジを育てるきっかけ

今から43年くらい前の、30歳くらいのお話になるかと思いますが、その時はね、ちょうど全国的にさつきが大ブームで、さつきの展示会とか、さつきの鉢が全国で大変なブームだったんです。

そして、のとクリシマツツジを見たときに、これだけ真っ赤なものをみなさんが何故鉢植えにしないのかということ、興味を持ち始め、鉢づくりを始めたんです。

これまでの出展先

一番早いのは昭和62年に第1回ののとクリシマツツジの展示会。ここ3年ですと、3年前が新宿御苑、2年前が神奈川の大船植物園、それから、京都府の府立植物園にて展示会をやったんです。県内では、金沢でもやっています。去年は、石川県庁19階の展望ロビーでやりました。それから、旧県庁のしいのき迎賓館って所でもやりました。また、能登空港や柳田植物公園でも展示しています。

のとクリシマツツジとはどのようなお花？

とにかく、赤いという事です。まあ、赤だけではないんですけども、とにかく赤だというふうに思って頂ければいいかと思えます。それで、さつきと基本的には同じようなものなんですけども、さつきよりも少し、デリケートというか、気難しいというか、少し作りにくいというものもあるかと思えますね。

クリシマツツジには種類がありますね。一番主流なものは、「本クリシマ」という花びらが一重のもので、色も真紅っていうかね、真っ赤なんです。それから、二重のもので、二重のものは、普通一般的には「八重クリシマ」といいます。それから、「二順クリシマ（にじゅんきりしま）」。そして、「みのクリシマ」があるんです。丁度花びらの下に、こしみのつという、フラダンスするとき、ふらふらとついたのがあ



中日新聞にのとクリシマツツジが掲載された写真です。

るでしょ。あのような感じのものがついたのが、「みのクリシマ」って普通一般に言われるわけですね。それから「紫クリシマ」ですね。そして、けらっていう、けら性の一重、二重ってことで、だいたい今のところ7種類ありますね。

クリシマツツジの天敵

クリシマツツジの害虫は少ないんですけども、毛虫のようなものですね。毛が黒っぽく出たような毛虫が葉を食べる訳ですね。もう一つ大きいものでは、グンパイ虫というのがあるんです。小さい羽根のついた虫なんですけども、背中模様は丁度お相撲さんの行司さんが持っている、軍配に似たような模様があるわけなんです。葉っぱが葉緑素で青くなっているでしょ。緑色をしているこれを、葉に針を刺して、吸うわけです。そうすると、葉っぱがね黄色くてか、白っぽくなってね。木が弱るっていうかね、枯れる原因になりますし、グンパイ虫が一番のクリシマツツジの害虫としては大きいものだと思えますね。

管理を続けることの大変さ

40年以上も続けているんですが、毎日の管理というのが大変ですね。特に今年が酷かったんですけども、まず、水やりの管理です。これは、今日疲れたから明日にしようっていう、手抜きをするっていうようなことはできないわけですね。夏場なんかはきちっと、必ず水やりをするっていうことになります。ですから、夫婦そろって旅行に出るっていうことは、夏場は殆んどできません。それから、台風の対策、冬場の雪対策をしなければなりません。鉢ものはハウスの中へすべて持ち込みますね。

ひとつだけ大事にしていた鉢が、植え替えを1年遅らせたっていうか、植え替えをしなかったために、枯れたってものがあります。植え替えは、3年毎にやっているんです。鉢の植



鉢替えや日常の管理に使う道具です。赤い蓋のついた物は切った面に病気が入らないようにする案です。

え替え時期にきていたものを、植えかえし忘れたということで枯らした鉢が1鉢。大事な鉢で大変苦労したんですけども、その時は大変残念でした。これで懲りて、管理をきちっとやっていますので枯らすことはないんです。

家族の支えは大変な支えでしたね。うちの今の家内と、亡くなったお婆ちゃんに支えられて、ここまで来たということです。10年以上も単身赴任で家を離れていましたので、その間の水やり、管理、それから、台風の対策というのは、家族に殆んど世話になったとゆうことで、それでなければ、これだけのものができなかったって思いますね。

名人たる所以① “キリシマツツジの挿し芽の増殖”

挿し芽（さしめ）ですか。結局、挿し木（さしき）ってことになるわけなんですけども。一年生の新芽あるいは二年生のものを挿すってようなことが、普通挿し芽になるわけ



鹿沼土に新芽を挿し、一度にたくさんの苗を作っています。殆どの苗の花が咲きとても綺麗です。

です。一年生のものについては、青芽挿し。二年生のものについては、赤芽挿しっていう名に一般的な言い方をしているんですが、活着率を良くする場合には、ホルモン剤をつけて挿すってようなことも行われております。

挿し芽はさつきと比べては、ちょっと難しいと思います。けど、基本は肥料と土なんです。土は無肥料のもの、私は鹿沼土の細粒・微粒というものを使って挿し芽をしております。そして、置き場所は湿度の高い日蔭なんですけど、そういう所で管理をすると80~90%の確率で活着できますね。私のところでは、ハウスの中で育てていますので、100%に近い確率で挿し芽ができる訳なんです。普通ハウス以外で挿し芽ってことになると50%程度で、非常に活着率が落ちます。

それから、何十年って経った腕のような大きいものは、挿し木（さしぼく）って言いますかね。挿し木の挿し芽じゃ無いんですけども、こういうものも、私らの所で、まあやっておりますね。

名人たる所以② “開花期のコントロール”

のとキリシマツツジは普通、1週間から10日くらいが花の時期かというぐらいに思います。

非常に生命の短い花になるわけなんですけども、その10日間の花を皆さんに見ていただくために、あとの1年間355日を一生懸命に育てるってようなことになるわけなんです。ですから、その10日間だけは綺麗な花にしようということで、やっておる訳なんです。

花の生命が短い長いというのは、温度の高いところだとまあ短くなります。という事は、普通暖房の部屋では短くな



新芽ではなく、太い枝から根を出させ短期間で大きな鉢ものが出来上がっています。



将来どのような、形にしたいかイメージしながら、成長させています。

りますし、温度の低いところが、花がもっと長く咲かせることができる、という風に思いますね。

咲く時期は、私のところのはね、自然に置くと5月の下旬なんですが。展示会は3月の展示会、それから4月の展示会、5月の展示会というものがあり、その展示会にあわせて花を咲かせるっていうのは大変な作業なんです。3月の展示会は施設がありませんので、私のところではできないんですが、4月の展示会は金沢の県庁とか市の玄関は私のところで咲かせる準備をしますし、能登空港、柳田の植物園の展示会は当然私のところで花を咲かせますね。

5月は意外と咲かせやすいんですけども、早く咲かせすぎても駄目ですし、それから、遅れると蕾のままです展示をすることで、お客さんに大変申し訳ないというような気持ちになりますね。

鉢上げに成功した当時の気持ち

鉢替えにも、色々な鉢上げがあるんですね。

地面に植えてあるものを根のついた状態で一部切り取って、鉢に上げるというようなやり方もありますし、途中から切って根を出させて鉢に上げるというようなやり方もあります。管理はたえず日陰に置き、霧吹きをして湿度を高くするっていうことでやっております。失敗というようなことは殆んどしておりませんし、上手く育てば喜びもそれなりなんです。

クリスマスツツジの渡来

クリスマスツツジは、元々九州の鹿児島霧島地方から出た

もので、ずっと以前に江戸へでて、江戸から能登の方へ来たという風に言われているんです。能登には100年、200年、300年って言われるような古木が非常に多いんです。ツツジ関係では全国でも名の売れた先生方で、新潟県立植物園の副園長の倉重先生と、島根大学の小林教授が、6年前から能登一円の調査に入っておられたのです。現在も調査中なんですが、今のところ100年以上と思われるものが、500以上はあるだろうということです。「これだけの群生地は日本ではこの能登半島だけでないか」という風にいつておられます。能登が一番、多いのではないかとというようなことですね。

本クリスマスツツジは九州の鹿児島から出たっていう事で、九州の鹿児島の方々が能登の方へ来ておいでますね。それから、新宿での展示会の時でも、展示会を見に九州の鹿児島から出て来られております。

クリスマスツツジを育てていて、良かったと思うことは、とにかく育てるのは大変なんですけども、この花の時期に皆さんに見て頂いて、綺麗だったことで感動していただくことで、1年間の苦労もいっぺんに吹き飛ばすっていうかね。クリスマスツツジをやっていて良かったという風に思いますね。全国で能登だけがそうですけども、のとクリスマスツツジのオープンガーデンをやっています。私の家もオープンガーデンに入っているんで、1日に100人近くのお客さんが見に来られる時もあります。

のとクリスマスツツジの郷 副理事長として

特別な何というか役はないんですけども、私とすれば、今現在持っている鉢の管理と、一般の方で庭植えの霧島を持っている方で、色々困りごとの相談という事で、連絡があつ

た場合は、そこへ出向いて状況を見て対策を立てるっという
ようなことですね。

志賀町の方々がマイクロバスに来て、教えてくれてこと
で、勉強会を植物公園でやった事もあるんです。また、能登
高校の一部の生徒さんにも教えています。

PROFILE

水木 由一 みずき よしいち

昭和 15 年 1 月 28 日生・72 歳・のとキリシマツツジの郷 副理事長

農林水産省職員・食糧事務所の上司からサツキを頂き大切に管理するこ
とから趣味が高じ、又、のとキリシマの赤い花の魅力に引き付けられ、
現在、のとキリシマツツジの郷の副理事長を務める。現在も自宅で 70
～80 鉢のキリシマツツジを管理し県内外への出展も行っている。

●取材を終えての感想●

僕は「能登の里山里海」の聞き書き体験をしま
した。2人の先輩とパートナーの藪下と先生で研
修会場の春蘭の里「こぶし」へ行きました。こぶ
しには知らない大人の人は勿論、他校の生徒もた
くさんいました。4人で一緒に行ったのですが、
僕たちはちょっと遅れてついたので、とても恥ず
かしかったです。そのあとはみんなで自己紹介を
しました。みんなが仲良くなるための交流会もし
ました。交流会では、能登の里山里海にちなんだ、
食材や生物の絵を書いたり、フルーツバスケット
というゲームで里山里海の食材や生物を使って遊
びました。

次の日、午前中にレポートの進め方や質問の仕
方、ボイスレコーダーの使い方など色々と学びま
した。僕と藪下の2人は、水木さんののとキリシ
マツツジの鉢植えに成功した名人のもとへ行くこ
とになりました。準備を終えた僕たち2人は、水
木さんの家へ行きました。

水木さんの家には、地面から生えたキリシマツ
ツジの木がありました。家についた僕たちを、水
木さんが出迎えてくれました。水木さんに質問し
ようとしても、初めての体験だったので緊張して
上手くしゃべることができませんでした。しかも、
途中から、カメラの撮影があったので、もっと緊
張してガチガチになってしまいました。

上手くできたとは言えませんが、のとキリシマ
ツツジの話も水木さんの話も無事に聞くことが
できました。最終日、レポートのまとめ方を幾つか
のチームに分かれて、例文をまとめてみました。
上手くまとめることは難しく、頭を悩ませました。
その後、みんなで記念写真を撮り解散しました。

この聞き書きに参加して良かったと思います。
自分に何ができるか、自分の限界を知ることが
できたし、たくさんの友人を作ることができたので
楽しかったです。(出村魁斗 写真：右)



インタビューするのは初めてだったので少し緊
張しました。自分は声が小さいので不安でした。
実際にインタビューするとやっぱり自分の声が小
さくて、水木さんに何回か聞き直されたので、気
を付けようと思いました。のとキリシマツツジは
どのような花なのかわからなかったので、いろ
いろ聞けてよかったです。他にも作業に必要な道具
を見たりできてよかったです。

この体験を通して、インタビューではどのよう
に質問すれば良いかを学ぶことができたし、色々
な人と会うことができたので良かったです。

(藪下亮太 写真：左)